

2024年8月

神戸アイライト協会の利用者、関係者の皆様

神戸アイライト協会の状況についてのご報告

神戸アイライト協会
理事長 森 一成

神戸アイライト協会の事業にいつもご協力いただき感謝申し上げます。おかげさまで、この4月に設立25周年を迎えることができました。支えていただいた全ての皆様に改めて心より感謝の思いであふれております。

しかしながら、ご承知のかたも多いと思いますが神戸アイライト協会の中心的な事業が存続の危機に陥っています。「電話や面談で見えづらさによる悩み事・困りごとを相談できる」「安全に歩く方法を知る」「スマホやパソコンなどの機器の使い方を知る」といった視覚障がい者にとって非常に重要な事業である、見えづらさに対応するすべを知る視覚リハビリテーション・専門相談事業(視覚リハ事業)が、大幅な赤字が続いています。視覚障がい者にとって切実なニーズに応えるこの事業を神戸市委託による事業として実施しています。この事業の予算は2年前から市民一人当たり14円から9円になりました。年間にすると800万以上の大幅な減額となりました。同様の視覚リハ事業を実施している他の多くの大都市は、市民一人当たり20円から30円の予算です。市民一人当たり20円が、本来必要な事業予算といえます。そのため大幅な赤字事業となり継続の危機に陥っています。

危機回避のために利用者の皆様とともに当協会として神戸市への改善要望の話し合いを続けていますが、2024年度も残念ながら同じ予算での契約となりました。やむなく契約をしていますが、大幅赤字が3年続くことになりました。来年度以降の改善の見通しありません。幸い多くの皆様のご厚志等で何とか持ちこたえています。このままだと事業の縮小・消滅の危機は確実に近づいています。

職員の多くが60代以上となりました。これからの視覚リハ事業を担う人材はもちろん、協会としても新たな人材が必要です。このままでは職員体制の維持も非常に厳しい状況です。

神戸アイライト協会は皆さんの「集える所」「相談できる所」「視覚リハを学べる所」であり続けたいと願っています。特にハンドファームでは些少ではありますが、工賃支給作業の拡大も進めております。通所施設を引き続き安全にご利用していただきたいと願っております。心配な時は歩行訓練士にご相談いただきご無理ないようにして通所していただければ幸いです。今後とも、このような諸事情をご理解いただき、当協会事業のご利用、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。